

平成 30 年度 技術研究発表会資料に関する

誤植のお詫び・訂正のお知らせ

「平成 30 年度 技術研究発表会資料」に誤植がございました。お詫び申し上げますとともに、下記の通り訂正させていただきます。

P.8

図 2.1.3 作業者過失区分の円グラフ

【誤】土木建築会社 27%

その他 7%

↓

【正】土木建築会社 19%

その他 5%

P.13

図 2.1.10 原因区分による事故件数

【誤】自然劣化 1 件 4%

公衆の故意過失 5 件 22%

↓

【正】公衆の故意過失 1 件 4%

自然劣化 5 件 22%

が6件と多い。土木建築会社や電力会社からの作業内容を、電気管理技術者に報告しておらず関係各所への密な連絡を怠っている点で設置者には大きな責任があり、ヒューマンエラーに該当すると判断される。

電気設備の改修等がある場合は、電気管理技術者へ連絡をするよう協力を仰ぐべきである。

(表 2.1.3 図 2.1.3 作業者過失区分主計参照)

表 2.1.3 作業者過失区分集計

No.	使用年数	件数	備考
1	設置者	6	電気主技に未連絡 4 件
2	電気管理技術者	9	
3	電力会社	1	電気主技に未連絡
4	土木建設会社	4	重機による事故 3 件
5	その他	1	火災放水もらい事故
6	合計	21	内 5 件重複

注) 電気主技とは、電気管理技術者を示す。

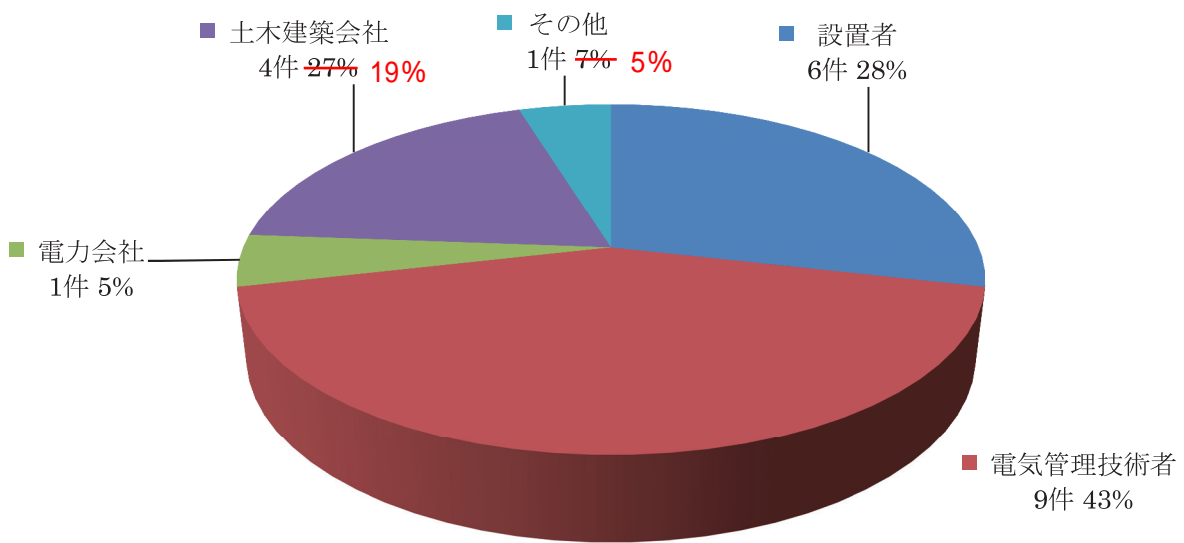


図2.1.3 作業者過失区分

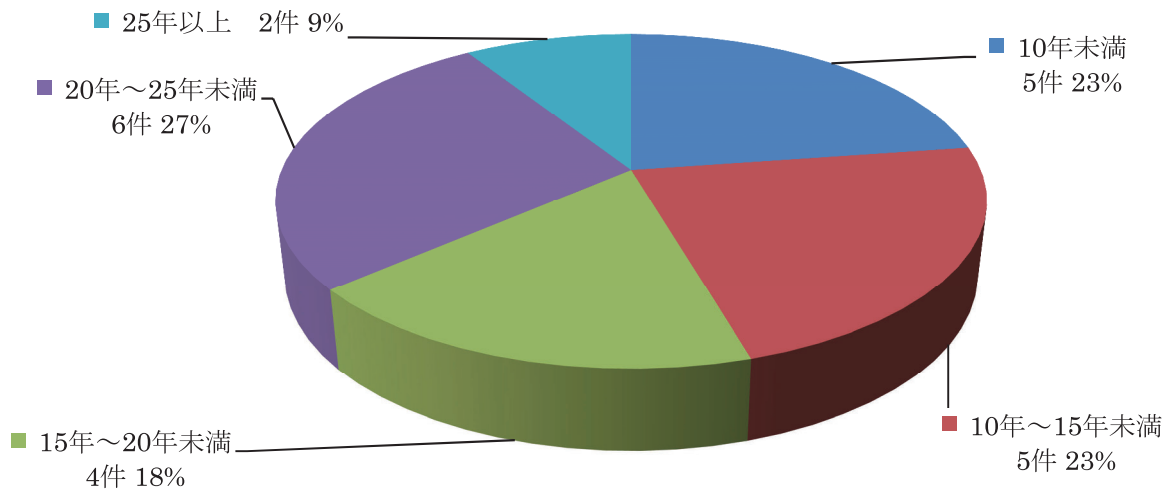


図2.1.9 使用年数別事故発生件数

(3) 原因区分による事故件数

資料3に示す通り「雷害」による波及事故は17件で、更新推奨年を過ぎて使用していたPASは12件あり、UGS1件を省くと75%という高い数値を占めた。

続いて、「自然劣化」による波及事故は5件で22%。内4件は、更新推奨年を超えて使用しており、全体の80%に上った。経年劣化したPASの事故率は高く、見逃すわけにはいかない事故であった。

残り1件は、塩害の多い離島での事故である。電気管理技術者より絶縁低下(微地絡)の報告を受けたにも関わらず、設置者は、PASの使用年数は8年と更新推奨年には達していなかったため、二の足を踏み波及事故を起こしている。

電気管理技術者の報告を重視し、更新改善す

るように心がけてほしい。「設置者」のヒューマンエラーによる、まことに残念な事故であった。

「公衆の故意過失」事故については、近隣火災事故の消火活動時(放水)に、PASが不具合を起こし波及事故に至った不慮の事故であり、対策の取れない事故であった。(表2.1.10 図2.1.10 原因区分による事故件数参照)

表2.1.10 原因区分による事故件数

No.	内 容	件数	備 考
1	雷 害	17	UGS×1件含む
2	自然劣化	5	
3	公衆の故意過失	1	火災放水による水浸入
合 計		23	

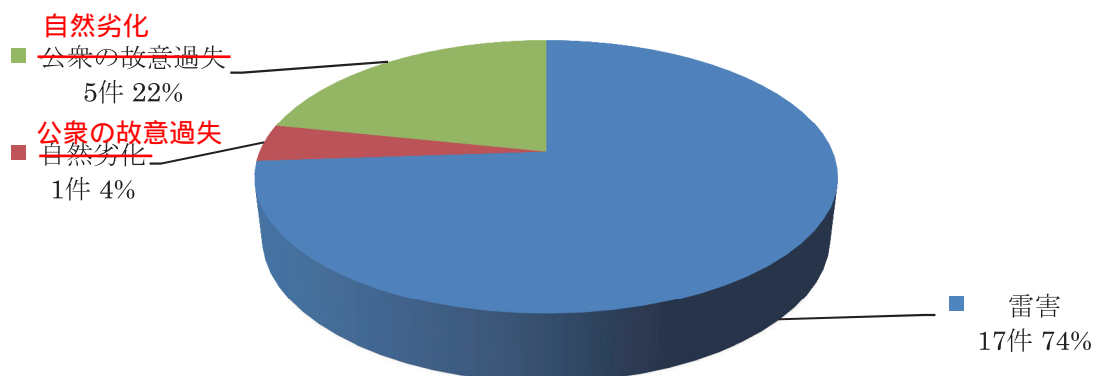


図2.1.10 原因区分による事故件数